

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

学校教育目標「みがき 認め合う 輝く一小的子」  
 (知) やるべきことをきちんとやり、課題や問題に挑戦し学び続ける子を育てます。  
 (徳) 自分や他者のよさを見つめ、認め合える子を育てます。  
 (体) すずんで健康づくりに取り組み、自分や他者の生命や体を大切にすることを育てます。  
 (公) まちに学び、まちの人と関わる子を育てます。  
 (開) ささまざまな人とコミュニケーションをとり、共に生きる子を育てます。

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

情報活用能力

自分づくりに関する力

具体化した資質・能力

人と情報を交換する力 課題解決に必要なものを選択する力  
 主体性・積極性 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢

中期取組目標

○学校教育目標の実現のために、誰もが安心して笑顔で過ごすことのできる学校づくりを目指します。  
 ・子ども一人ひとりが、分かる楽しさや達成感を実感できる授業づくりを推進します。  
 ・自ら学び、自ら考え、自信をもって行動する子どもを育てます。他者とつながり、社会とつながり、ともに高め合う子どもを育てます。  
 ・自分のよさや相手のよさに気づき、互いに認め合い、子どもが安心して楽しく過ごせる学校づくりを進めます。  
 ・情報教育を推進し、教科横断的に情報活用能力の育成を図ります。教育の情報化、ICT活用を推進します。  
 ・学校、保護者、地域が共に手を取り合い、子どもたちの健全な育成を図り、信頼される学校づくりを目指します。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学力向上	① 知識等の定着を図る授業とそれらを活用・応用した授業をバランスよく計画的に進める。 ② 主体的に問題に取り組むために、学び合うこと、伝え合うこと、認め合うことのできる場面の構築を図り、本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが主体的に学習を進められるようにする。 ③ 指導の狙いに応じて授業での児童の学びを振り返り、学習や指導の改善に生かす。
担当	学力向上プロジェクト

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関する児童生徒の実態

横浜市の平均的な学力よりやや低くなっている。「学習が大切であり、好きである」という意識は、変わらず続いている。学習の必要性を十分理解し、積極的に取り組む姿勢があると感じられる。しかし、学んだことを問題解決に活用しようとする意識に欠け、とすると受動的な学習態度になりがちになる傾向がある。学習の必要性は十分理解しているため、学んだことを「生きてはたらく知」としていくために、学んだことをもとに、さらに発展させていこうとする態度を育成したり、共同的な問題解決場面を設定したりするなど、より積極的に取り組むための授業改善の必要性が感じられる。

(2) これまでの学校の取組状況  
 重点研究で取り上げてきた国語科の学力層Aの児童が増えた。特に、「書くこと」の領域を取り上げた研究が多く見られ、自分の考えが伝わるように書くことができるなど、結果として書く力が上がってきたと思われる。一方「読むこと」の領域では、要旨を伝える、資料を活用したり多様な文章を読んだりして自分の考えをまとめる、複数の叙述を結び付け登場人物の気持ちを想像する、などに課題が見られた。一層の授業の質的向上を図るため、全職員で取り組んでいく必要が感じられる。

今年度の目標

情報活用能力を生かし、問題解決する子どもの育成

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
低学年 <情報を収集したり分類したりする力> 情報を収集したり分類したりする場を設定する。 <自分らしさを発揮しようとする姿勢> 互いに見合ったり助け合ったりして、気付いたことを伝え合い、友達のことを認め合うことができるようにする。 中学年 <問題解決に必要なものを選択する力> 学習に見通しをもたせることで自ら問題を探求することができるようにする。場の設定や効果的なICT機器の活用などにより児童自らが選択しながら活動できる場を設定する。 <自分らしさを発揮しようとする姿勢> 思いや願いの実現に向けて、対象に自ら動きかける自分自身の姿、変容や成長をとらえて、自分自身の良さや可能性に気付けるようにする。 高学年 <問題解決の過程を振り返る力> 自らの考えを振り返ったり、改善したりしていく場面を設定することで、問題意識を自ら発見し、解決していく力をつける。 <自分らしさを発揮しようとする姿勢> 友達のよい所を互いに伝え合うことで、自分らしさを多面的にとらえ、向き合うことができるようにする。	低学年 <感じたことを言葉にする力> 自分の考えをもち、相手の考えを聞いて分かることの楽しさを味わうために、ペアやグループでの話し合いを大切にすること。 <自分らしさを発揮しようとする姿勢> 身近な事象に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしようとする力をつける。 中学年 <問題解決に必要なものを選択する力> 自分の考えに自信をもって調べたり、考えを発信したりすることで、情報を友達と共有し、解決に向けての調整ができるようにする。 <試行錯誤する能力> 互いの考えを知り、自らの学習に生かすために、学び合い、教え合うことを通して学ぶ楽しさを味わうことができるようにする。 高学年 <伝え合うことで自分の考えを深化させる力> 根拠を明らかにして説明したり伝え合ったりする活動を通して、導き出した結論についていろいろな切り口で考えることができるようにする。 <問題に気づき、自ら考え、伝える力> めざす児童の姿を明らかにしながら、単元でつけた力を明らかにし、学習に見通しを持たせて活動を行う。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	① 子ども人権会議や児童会活動の取組を通して、子どもの人権意識を一層高めていく。決定事項や全校で取り組みたいことについて周知し、より主体的に取り組めるようにする。 ② 教職員の人権意識を高める研修を実施するとともに、人権教育を充実させる。 ③ 感染症対策が必要なことを踏まえながら、できる限り異学年同士の交流を広げ、相手を思いやる気持ちを育てる。
担当	豊かな心プロジェクト

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 児童の実態  
 ・自己中心的な言動や自尊感情の乏しさから、無意識に友達の心を傷つけてしまうことがある。  
 ・善悪の考えよりも目先の楽しさや自分の都合を優先させることから、友達とトラブルになってしまうことがある。  
 ・自分より年下の子や個別支援学級の友達に対して優しい気持ちで接しようとする姿が見られる。  
 【いじめアンケートより】  
 ・大きな問題となるいじめではなく、嫌がらせなどの負の積み重ねが多いことが分かった。突発的で継続的ではない。その後、大きな問題に発展しないようその都度対処し、解決することができている。  
 【学校評価(児童)アンケートより】  
 ・学校生活に良いイメージをもっている児童が多い。  
 ・中には、学習面や生活面を併せて不安や悩みを抱えている児童もいる。  
 【Y-Pアセスメントより】  
 ・学校生活に満足している児童が多い一方で、自己肯定感が低く、なかなか自信がもてない児童も多数いる。決して学級で居心地が悪いわけではなく、集団生活の中で極端に謙虚になっていることも考えられる。

(2) これまでの取組状況  
 ・年間指導計画・全体計画別業に基づき、道徳授業を意図的に実践した。  
 ・「人権感覚」の視点をもった授業づくりや学習環境づくりを行った。  
 ・児童会活動の常設委員会として人権委員会を設立し、主として「子ども人権会議」を進め、各学級へ人権意識を高める取組を考え実施した。  
 ・異年齢同士のつながりを築くために、たてわりペア活動を行った。

今年度の目標

児童が自己を人との関わりで捉え、望ましい人間関係の構築を図ることで人権意識を高める

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
【項目 道徳教育】道徳科を要した学校の教育活動全体を通じた道徳教育（必須項目） ・年間指導計画・全体計画別業に基づき、道徳授業を意図的に実践する。 ・「人権感覚」の視点をもった授業づくりやICTを活用した支援、学習環境づくりを行う。 ・児童会活動を主とした人権的取組や子ども人権会議を進め、子ども自らが自分たちの課題に気づき、協力して解決していこうとするよう支援していく。 ・子どもの「自分づくり」「仲間づくり」「集団づくり」のために、横浜プログラムの活用を図る。 ・特別支援のセンター的機能校の職員を講師に迎えるなど、教職員の人権意識を高める研修等を積極的に進めていく。	・人権週間を十分に活用し、児童会の人権委員会のあいさつ活動や各クラスでの「人権感覚」についての振り返りを行い、互いの自己肯定感を高め合う活動を行う。 ・人権キャラバンの出前授業をそれぞれの学年に合った内容で実施し、今の自分たちの生活に根差した「人権感覚」がもてるように図っていく。 ・いのちの学習を通して、自分がこれまで成長してきた過程を知ったり振り返ったりすることで、家族や友達への感謝の気持ちと自尊感情をもてるように促していく。 ・数々のアンケートやY-Pアセスメントなどから児童の自己肯定感・自己有用感・自尊感情などを客観的に把握し、普段の学級経営や児童理解、一人一人が安心して生活することができる学習環境づくりに職員が連携していきけるようにしていく。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	① 「感染症予防」を推進するとともに、自らの健康は自らで守り、生活していく習慣を身につける。 ② 「命の授業」の取組により効果的な時期や内容の吟味を行う。 ③ 基礎体力の向上を図るため、体育や休み時間等を活用し、リズム縄跳びや大縄跳びに全校で取り組む。
担当	健やかな体プロジェクト

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童生徒の実態  
 ・朝食の有無に関しては、市の平均並み。  
 ・市の平均を上回っている項目は、「運動やスポーツの実施状況」「運動時間」「睡眠」  
 ・市の平均を下回っている項目は、「握力」「立ち幅跳び」「反復横跳び」「長座体前屈」  
 (令和3年度 横浜市体力・運動能力調査の結果)  
 以上の結果から、スポーツや運動の習慣など、運動をしたり、スポーツに親しんだりするために必要な資質・能力は育ってきていると考えられる。一方で、項目ごとの数値が低いことから、限定された種目や人とのつながりになっている可能性があると思える。

(2) これまでの学校の取組状況  
 ・スポーツに多様にかかわる機会を確保するため、体育委員会を中心に、リズム縄跳びを考え、全校児童で取り組むことが出来るようにしたり、様々なスポーツに関する集会を行ったりした。  
 ・「命の授業」の学習内容を6年間で系統化して計画し、自身の健康や生活習慣について考える機会を設けてきた。

今年度の目標

スポーツに多様に関わる機会の確保  
 体力や技能の程度、性別や障害の有無等を超えて、仲間と学ぶ経験を通し、運動をすることやスポーツに親しむことの喜びを味わうための資質・能力を育成する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期	下半期
※育成を目指す具体化した資質・能力と関連付けた具体的手立て ※学年や教科等ごとの具体的手立て ※上半期の具体的手立て など ・体育委員会による「リズム縄跳び」の実施。リズムに合わせて、楽しく活動し、運動やスポーツの意義や価値を学習することで、学校が家庭・地域社会でスポーツに「する」「みる」「支える」「知る」等、多様に関わるために必要な資質・能力を育成する。 ・マリノスベイスターズなどの、出前授業を実施し、様々なスポーツに触れることで、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。	・新体力テストの結果を周知し、自分自身の体力について知ること、生涯にわたって心身の健康を保持推進するための資質・能力を育成する。 ・パラリンピアンによる支援授業を行う。パラスポーツに関わる中で、共生社会、多様性等の理解を深める。 ・スポーツフェスティバルでの全校体操や団体競技などのあり方を見直す。結果を重視するのではなく、仲間とつながり運動する経験を通して、仲間と関わり合いながら運動することや、スポーツに楽しむことの喜びを味わうための資質・能力を目指す。 ・「命の授業」を実施し、自身の生活習慣や健康について「知る」「みる」機会をつくる。 ・体育委員会による大縄跳び集会を計画し、クラス全体で取り組む機会をつくる。体力や技能の程度、性別や障害の有無等を超えて、スポーツに多様に関わる機会を確保する。